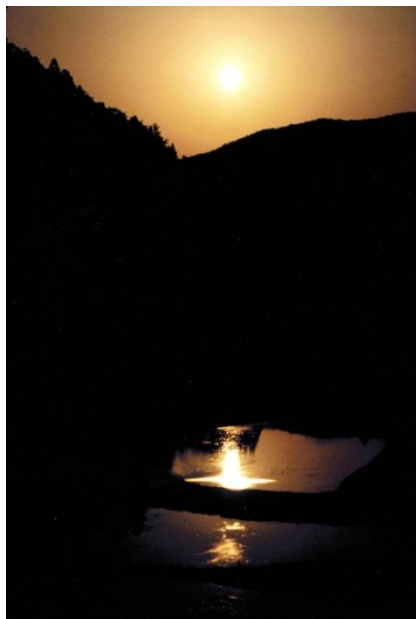


かみかつ棚田のめぐみ感動 ビジネスづくりプロジェクト

徳島県上勝町



八重地地区の棚田



桧原地区の棚田



市宇地区の棚田



田野々地区の棚田

かみかつ棚田のめぐみ活用会議(平成27年3月)

1. 事業実施地域の概要及び課題

・実施地域の概要と課題

(人口、65歳以上人口、高齢化率は、平成27年1月1日現在)

○八重地(やえじ)地区

にほんの里100選に選定された上勝町・八重地の棚田で活動する集落組織。かみかつ里山倶楽部と連携し、八重地の棚田において茅葺き民家を活用した活動を展開中。運営体制、高齢化が課題。

(46人、36人、78. 26%)

○市宇(いちう)地区

市宇の棚田において棚田等を活用した活性化活動を展開中。運営体制、高齢化が課題。

(40人、30人、75. 00%)

田野々(たのの)地区

かおり風景100選の田野々の棚田周辺で集落運営による神田湯っ足り茶屋運営による集落活性化活動を展開中。

茶屋での集

客力増、運営体制確保が課題。運営体制、高齢化が課題。

(250人、133人、53. 20%)

檜原(かしはら)地区

棚田100選、重要文化的景観の檜原の棚田の保全活性化活動を展開。棚田オーナー制の受け入れを担う。運営体制、高齢化が課題。

(28人、19人、67. 86%)

事業の背景と方向性

- **事業の背景(現状と課題)**

- 棚田の高いビジネス資源価値(未開発)
- 活発な棚田保全活動・交流活動
- 棚田保全活動・交流活動にとどまる
- 活動主体の個別活動、消費者の混乱

- **目指す活動の方向**

- 視点 1 : 上勝町における未開発の棚田フィールド資源の活用ビジネス化
- 視点 2 : 感動及び経営視点を重視した支援
- 視点 3 : 消費者ニーズにたった棚田ビジネス活動のプラットフォーム化
- 視点 4 : 地域課題の解決と集客の目玉となる取組の展開
- 視点 5 : 資源保全型のビジネスモデルづくり

2. 地域づくり活動支援体制の構成

◎かみかつ棚田のめぐみ活用会議の目的

本会議は、上勝町における棚田資源・集落資源・里山資源等の地域資源を活用した感動ある地域ビジネス創出により、継続的な地域資源の保全・活用を図り、持続可能な地域づくりを目指す。

◎中間支援活動の項目

- 取組1：棚田のめぐみ連携型ビジネスフレーム検討支援
- 取組2：棚田のめぐみ連携型商品開発検討支援（新規開発・リニューアル）
- 取組3：連携型販売促進・販路開拓活動支援
- 取組4：棚田のめぐみ連携商品試行実施にかかる検証支援
- 取組5：会議・ワークショップ開催

◎構成主体・役割（中間支援の内容）：かみかつ棚田のめぐみ活用会議

構成主体	役割（中間支援の内容）
やいたか	取組1～取組5の全般を支援
徳島銀行	金融機関の知見を活かし取組1,取組2,取組4,取組5を支援
上勝町	取組1・取組3・取組5を担うとともに、本事業の事務局を担当する

3. 担い手の概要

八重地地区活性化協議会	日本の里100選に選定された上勝町・八重地の棚田で活動する集落組織。かみかつ里山倶楽部と連携し、八重地のs集落において茅葺き民家を活用した活動を展開中。運営体制、高齢化が課題。
市宇地区活性化協議会	市宇の棚田において棚田等を活用した活性化活動を展開中。運営体制、高齢化が課題。
神田満天星会議	美しい村写真グランプリの田野々の棚田周辺で集落運営による湯っ足り茶屋運営による集落活性化活動を展開中 茶屋での集客力増、運営体制確保が課題。
檜原の棚田村	棚田100選、重要文化的景観の檜原の棚田の保全活性化活動を展開。棚田オーナー制の受け入れを担う。

かみかつ棚田のめぐみ感動ビジネスづくりプロジェクト

目的

上勝町における棚田資源を主とする地域資源を活用した感動ある地域ビジネス創出により、継続的な棚田の保全・活用を図ることを目的とする。

■取り組みの項目■

【5】会議・ワークショップ開催

(棚田のめぐみ活用会議、ワークショップ、個別連絡調整会議)

【6】人材育成・組織づくり

(ガイド要請、コーディネータ要請、事務局養成／連携組織ルール等)

【1】棚田のめぐみビジネスフレームづくり (向調査、理念・コンセプト等検討、ビジネス経営検討)

【2】棚田のめぐみ商品開発検討支援 (新規開発・リニューアル) (棚田ウェディング商品開発、棚田アクティビティ商品開発、棚田宿泊ツアー商品開発・検討、マーケティング調査)

【3】販売促進・販路開拓活動 (PRチラシ作成・募集、現地PR活動、都市部PR活動、インターネットPR募集)

【4】棚田のめぐみ商品販売・実施支援 (棚田ウェディング商品販売、棚田アクティビティ商品販売・実施、棚田のめぐみツアー販売・実施)

■取り組みの流れ■

かみかつ棚田のめぐみ会議・ワークショップ等(立ち上げ)

平成26年度:棚田のめぐみ感動ビジネス基盤整備

平成27年度:棚田のめぐみ感動ビジネスの試行

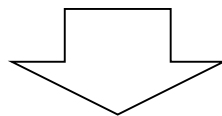
平成28年度:棚田のめぐみ感動ビジネスの本格展開

かみかつ棚田のめぐみ協議会(設立予定)

4. 事業概要

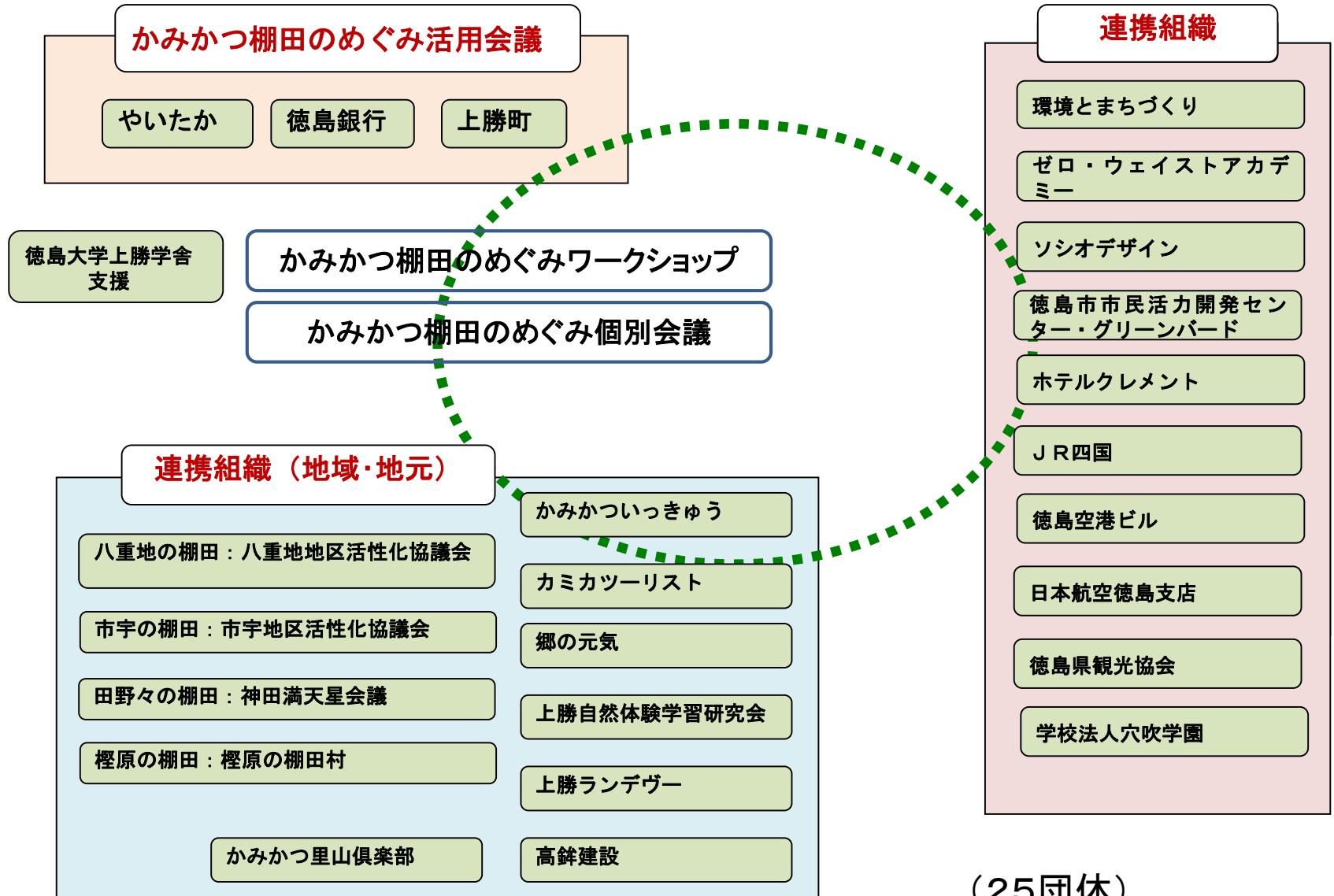
かみかつ棚田感動ビジネス

- 棚田・里山の恵みを生かす
- 感動とビジネスを創る
- 永続的に棚田・里山を守る



棚田・里山における環境保全型ビジネスの展開

かみかつ棚田のめぐみ感動ビジネスづくりプロジェクト(組織)



5. 各取組の内容

取組1：棚田のめぐみ連携型ビジネスフレーム検討支援

◎各取組の概要

- ・「1-1関係者アセスメント」は、コンセンサス・ビルディングの知見を活用して個別聞き取り方式により行い、連携の項目・課題・懸念等を把握分析する。支援対象組織、連携組織を対象として実施した。
- ・「1-2連携型ビジネスフレーム構築」は、連携・協働による本活動の理念、コンセプト、目標、仕組み検討」を行い、継続的な連携促進のため、参画組織間で合意を図った。
「中間支援の対象団体により構築した。
- ・「1-3連携型ビジネス経営検討」は、支援対象の地域づくり活動が、これまで各組織個別活動で展開されてきたため、連携型のビジネス経営検討を行う。中間支援の対象団体により連携した。

◎中間支援の実施体制

担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
棚田ウェディング、 棚田アクティビティ の実施	やいたか	関係者アセスメント 連携型ビジネスフレーム構築
	徳島銀行	連携型ビジネスフレーム構築
	上勝町	関係者アセスメント 連携型ビジネスフレーム構築

取組2: 棚田のめぐみ連携型商品開発検討支援

◎各取組の概要

- ・「2-1棚田里山ウェディング等商品開発」: 集落ビジネスとしての棚田里山ウェディング等の商品開発として、商品開発情報の収集、連携プログラム開発を行った。
- ・「2-2棚田里山体験商品開発(棚田アクティビティ)」: 安全管理を含んだ連携型商品のプログラム開発を行った。棚田ライトアップ、棚田オープンファーム、棚田ノルディックウォーク、棚田オーナー制度リニューアルのプログラム開発を行った。
- ・「2-3連携プログラム講習会」: 2-1、2-2のプログラム開発情報の講習会を、支援対象組織、連携組織を対象として開催した。

◎中間支援の実施体制

担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
棚田ウェディング、棚田アクティビティの実施	やいたか	棚田里山ウェディング等商品開発 棚田里山体験商品開発(棚田アクティビティ) 連携プログラム講習会
	徳島銀行	棚田里山ウェディング等商品開発 棚田里山体験商品開発(棚田アクティビティ)
	上勝町	連携プログラム講習会

取組3: 連携型販売促進・販路開拓活動支援

◎各取組の概要

- ・「3-1連携型PRルールづくり」は支援対象組織、連携組織の意向・調整を行い作成した
- ・「3-2連携型募集チラシ作成」は、下記を行った。
 棚田ウェディング、棚田ライトアップ1件、棚田オープンファーム1件、棚田ノルディック
 ウォーク2件、棚田オーナーリニュアル1件、計6件
- ・「3-3連携型インターネットPR募集」は、3-1の連携ルールにもとづきインターネットPRを行った。また、上記チラシ対象の活動のPR用写真撮影を行った。

◎中間支援の実施体制

担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
棚田ウェディング、 棚田アクティビティ の実施	やいたか	連携型PRルールづくり 連携型募集チラシ作成 連携型インターネットPR募集
	上勝町	

取組4：棚田のめぐみ連携商品試行実施にかかる検証支援

◎各取組の概要

- ・担い手による「地域づくり活動」として、「4-1棚田ウェディング販売試行（当初計画では予約）」「4-2棚田アクティビティ試行実施」が行われた。
- ・4-1棚田ウェディング等販売について検証支援を行った（当初は検証なし）
- ・4-2棚田アクティビティ試行実施について検証支援を行った
棚田ライトアップ、棚田オープンファーム、棚田ノルディックウォーク
棚田オーナー制度リニューアル

◎中間支援の実施体制

担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
棚田ウェディング、 棚田アクティビティ の実施	やいたか	棚田ウェディング販売試行 （当初計画では予約） 棚田アクティビティ試行実施
	徳島銀行	
	上勝町	

取組5:会議・ワークショップ開催

◎各取組の概要

- ・5-1 棚田の恵み活用会議開催
- ・5-2 棚田の恵みワークショップ開催（別途事業で開催）
- ・5-3 個別推進ワークショップ開催
棚田ウェディング2回、棚田アクティビティ3回
- ・5-4 活動たより発行

◎中間支援の実施体制

担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
棚田ウェディング、 棚田アクティビティ の実施	やいたか	棚田の恵み活用会議開催 棚田の恵みワークショップ開催 （別途事業で開催） 個別推進ワークショップ開催
	徳島銀行	
	上勝町	棚田の恵み活用会議開催 棚田の恵みワークショップ開催 （別途事業で開催） 個別推進ワークショップ開催 活動たより発行

5つの取組(平成26年度試行)＋人材育成

【1】棚田ウェディング等

- ・ 檜原の棚田（試行）
- ・ 八重地（写真撮影）

【2】棚田ノルディック・ウォーク

- ・ 檜原の棚田～市宇の棚田
- ・ 文化財を歩く

NEAL体験リーダー資格講座
（全国スタンダード）

○平成26年度
8月25日、9月6日、
10月19日、11月30日

（別途事業）

【3】棚田オープンファーム

- ・ 田野々の棚田
- ・ 未収穫果樹の活用

【4】棚田ライトアップ

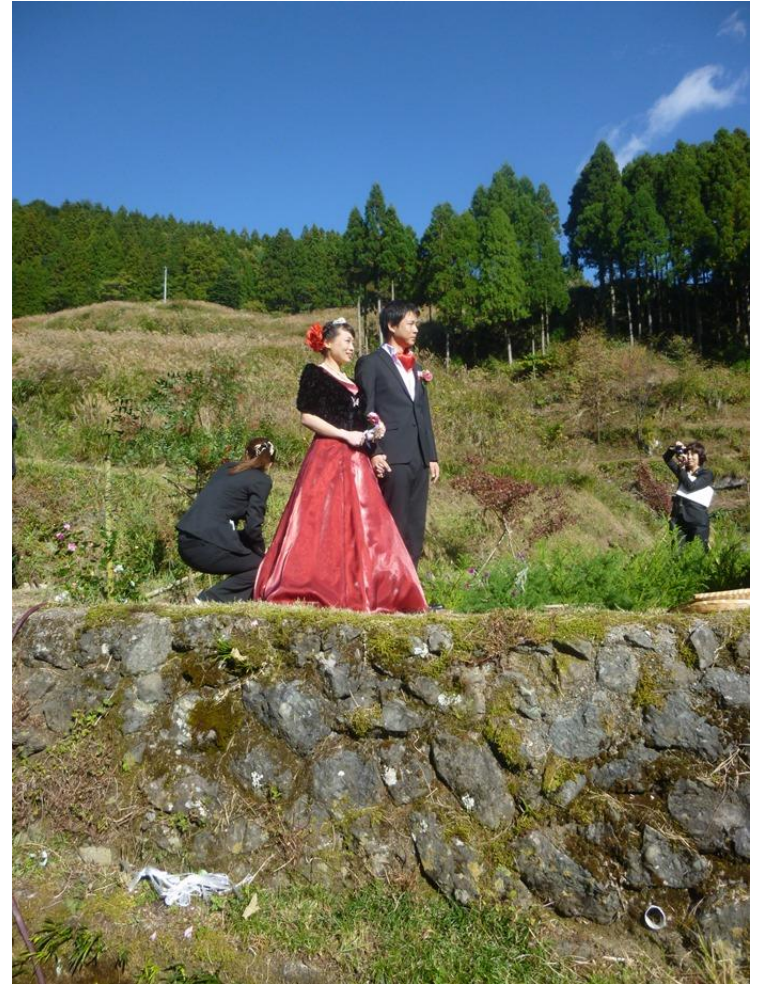
- ・ 八重地の棚田
- ・ ボランティアと連携

【5】棚田オーナー・リニューアル

- ・ 檜原の棚田、ほか
- ・ ウェディング・オーナーを新設

【1】棚田ウェディング (檜原の棚田)

11月3日実施
参加者人数:92人



【2】棚田ノルディック・ウォーク (桧原の棚田→市宇の棚田)

9月6日実施
参加者人数:43人



重要文化的景観地区を歩く
(集落間を結ぶ往還)



棚からぼた餅
ユコウサワー

棚田ノルディック・ウォーク (田野々の棚田)

11月29日実施
参加者人数:20人



【3】棚田オープンファーム(ゆこう) (田野々の棚田)

10月19日実施
参加者人数:38人



【4】棚田ライトアップ (八重地の棚田)

10月18日実施
参加者人数:約200人



○カーボンオフセット行事

- ・ローソク(結婚式場・リユース)
- ・竹(八重地素材)
- ・交通・・・カーボンオフセット

※活性化行事では、徳島県発のカーボンオフセット

若者交流 9月～10月 延べ200人
(高校生、大学生など)

棚田ライトアップ準備 (八重地の棚田)

9月～10月
ボランティア人数延べ:193人



【5】棚田オーナー制リニューアル

(桧原の棚田ほか)



創造的謝恩会 11月30日

会場: ホテルクレメント徳島(使用済みローソクの提供)



地元集落関係者、上勝町内組織、町外組織、学生ボランティア 41名参加

事業の検証(主なものの抜粋)

	よかった点	改善点	今後
檜原・市宇ノルディック	・はじめてのビジネスを観点においた活動であった	・3グループ間で地域情報の説明の差があった ・体調が十分でない参加者がいた	・ノルディックの健康的効果にも言及すると効果的
八重地ライトアップ	・強烈な感動があった ・温泉～棚田までのシャトルバスなどの関連ビジネスが試行できた	・ろうそくの灯り、誘導灯、足元を照らす灯りが欲しかった。 ・ビジネスの調整が不十分だった	・音楽祭とライトアップの連携で相乗効果が期待できる ・温泉起点の活動が効果的
田野々オープンファーム	・ゆっくりしたプログラム進行 ・ターゲットとテーマの整合性	・ユニフォーム等で参加者がスタッフを識別できる工夫が必要	・雨天時のプログラムの開発 ・緊急時にそなえた医療関係者が必要とする情報の収集。
檜原棚田ウェディング	・収穫祭とウェディングの両方一緒にしたことが良かった。 ・参加者全員が主体でウェディングを楽しんでいた	・総合打ち合わせが少なかった、地元にも情報が少なかった ・時間不足、プログラム共有不足、オーナーへの情報紹介不足	・雨対策どうするか ・事前打ち合わせ、情報共有が不可欠 ・鶴、亀、松などの地名の活用
田野々ノルディック(健康編)	・歩行速度、歩幅測定の実施 ・スタッフのユニフォームの着用ができていた	・安全管理スタッフの役割分担が十分でなかった ・「健康」に関する説明の補強があればなお良くなる	・夏開催の時、マムシ、スズメ蜂などへの注意が必要 ・「健康」に関する説明の補強があればなお良くなる
檜原・棚田オーナーリニュアル	・ウェディングオーナー制を創出したこと ・体験オーナー制を設けたこと	・周辺2時間圏内のPRの促進 ・現在のオーナーの顔が見えるPRの促進	・オーナーの受け入れ農家の拡大 ・檜原地区以外への棚田オーナーの展開
共通(今後)	・アクティビティ実施における継続的な人材育成の展開が望まれる ・安全管理に関する継続的な人材育成の展開が望まれる ・PR時期の早期化、実施の定期化ができると効果的 ・体験リーダー・リスクマネージの育成が不可欠		

活動の成果(平成26年8月～2月)

棚田アクティビティの種類	地区	実施	売上げ (千円)	交流人口 (人)	備考
棚田ウェディング	檜原 (試行)	11月3日	2,140	92	
棚田ライトアップ	八重地	10月18日	160	ボランティア 70 当日 250、計320	
棚田ノルディック	檜原-市宇	9月6日	66	41	公認指導員 9名誕生
	田野々		28	20	
棚田オープンファーム	田野々		60	38	
棚田オーナーリニューアル募集	檜原	1月～5月	635	300	
計			3,089 →3,100	811 →800	

6. 各取組の成果と課題

◎各取組の成果・課題

- ・棚田ビジネス商品の開発ができた。
- ・今後の課題として、観光協会的な機能をもつ中間支援の新たな構築、NEAL講習等による一層の安全的視野をもつ担い手の人材育成が課題である。

◎活動の社会的意義・社会的成果

- ・支援対象組織の意識向上が図られ、自主的にノルディックウォーク公認指導員が7名NEALリーダ10名が育成できた。

◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

- ・交流の域にあった棚田の活用が、感動を伴うビジネス創出の基礎ができ、今後の継続実施の可能性ができた。

◎成果目標

成果目標	現状(年度当初)	目標	達成状況
棚田ウェディング販売	0 組	1 組（予約）	1組（試行）
棚田アクティビティ商品販売の種類	1 商品	5 商品	5 商品
棚田アクティビティ商品販売の売り上げ	年間50万円	年間100万円 （連携組織含む）	年間310万円 （連携組織含む）
棚田アクティビティ商品の交流人口	200名	300名	年間延べ800名

7. 中間支援における課題と対応

●支援対象の自立を促進させる点で

◎中間支援において特に工夫した点

・高齢化の一層の進展による支援対象の意識高揚、やる気の創出するため、高校生や大学生の若者ボランティアの参画を得るビジネスフレームを構築した。

◎中間支援にあたり苦労した点、うまくいかなかった点

・支援対象者のほとんどが高齢者であり、中間支援時の連絡や支援情報共有にあたり、ICT技術が効果的に活用できなかった。

●中間支援をする立場で

◎貴協議会の成長(スキル、ノウハウの蓄積など)につながった点

・棚田アクティビティの検証支援の中で、日赤看護師の参画を得た検証体制が確保でき、今後、安全なアクティビティの実践に向けて、人的ネットワークの基礎が構築できた。

◎体制として連携することにより達成できたこと、メリット、効果

・中間支援のプロセスを経て、連携25団体のコミュニケーション形成ができ、今後の活動に向け、信頼感のある人的ネットワークが構築できた

8. 事業終了後の予定

棚田アクティビティの種類	平成26年度活動地区	平成27年度活動地区	内容(案)
棚田ウェディング	檜原	4地区で募集	・平成26年度の活動をもとに募集PR ・平成27年度に1組実施を目標 ・ライトアップ開催時の実施を検討
棚田ライトアップ	八重地	市宇	・市宇地区での開催決定 ・(検討アイデア)1111本(予定) ウェディングと連動
棚田ノルディック	檜原-市宇 田野々	4地区で実施	・4地区、各組織で年間計画を作成し実施 ・散策型、健康型で推進
棚田オープンファーム	田野々	4地区で実施	・4地区で実施を図る ・ノルディック・ウォーク等との連携を図る
棚田オーナーリ ニューアル募集	檜原ほか	檜原ほか	・一般オーナー募集に加えて、体験オーナー・ウェディングオーナーを新たに募集
共通	組織		・アクティビティ体験型の組織づくりを強化

(関連の取組み)

集落再生型の自然体験活動と の連携

人材育成(NEALリーダー)

平成26年度実績

- ・講座回数 4回
- ・37名受講、15名NEALリーダー資格取得(内上勝町関係者10名取得)

自然体験活動指導者・NEALリーダー 資格取得講座(全国スタンダード)

- ・主催: やいたか(地元組織)
 - ・共催: かみかつ里山倶楽部(環境教育部会)
 - ・共催: 上勝自然体験学習研究会(指導者養成団体)
- ※平成26年度実施(全国11カ所): 福島1、群馬2、千葉1、東京1、石川1、愛知2、兵庫1、徳島1、福岡1



自然体験活動指導者登録証

- ・平成26年度 約20名の活動リーダーが誕生
- ・有償の地域体験活動の展開へ

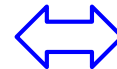
平成26年度 NEALリーダー研修

第1回(8月25日)

- ・ 自然体験活動の指導
- ・ 安全管理（基礎的な安全管理）
- ・ 安全管理（応急措置）

第2回(9月6日)

- ・ 自然体験活動の技術
- ※フィールド: ノルディックウォーク

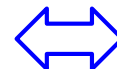


棚田感動ビジネス:

ノルディック・ウォークビジネス
づくりと連携・体験

第3回(10月19日)

- ・ 対象者理解
 - ・ 自然体験活動の特質
- ※フィールド: オープンファーム



棚田感動ビジネス:

オープンファーム・ビジネスと
連携・体験

第4回(11月30)

- ・ 青少年における体験活動
- ・ 自然体験活動の特質
- ・ ガイダンスと認定試験



集落再生連携型の体験活動 5つのアプローチ

(活動のブランド化)

1. 体験活動・交流活動を集落再生と結び付ける

- － 例 空家活用、集落居住などへ

2. 課題解決型の活動展開

＝(体験活動実施により、集落の経済に寄与する)

- － 例 オープンファーム(ユズ、ユコウ)
- － 例 上勝型棚田オーナー制度 (高齢化に対応した仕組み)
 - ・ 他地域:「耕作支援者・土地提供者」+「事務局」
 - ・ 上勝 :「土地提供者」+「耕作支援者」+「事務局」

3. 連携による相互協力＝定期開催化

- － PR活動の連携、人材の相互協力
- － ノルディック・ウォーク、オープンファームなどの定期開催へ（予約型）
資源のブランド化→活動のブランド化

4. ツーリズムの融合

- － エコツーリズム＋グリーン・ツーリズム＋アグリ・ツーリズム＋教育ツーリズム

5. 活動のブランド化

- － いい資源がある、いいプログラムがある、活動の担い手がいる
- － 継続的に行われている、安全に行われている

- － 例）安全を知るNEALリーダーが50名いる地域 ＝ ブランド力